

人のあら探しをし裁くことについて

マタイによる福音書7章1節～6節

ルカによる福音書6章37節～42節



"さばいてはいけません。さばかれなためです。

あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。

兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。

偽善者よ。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。"

マタイの福音書 7章1～6節

聖書 新改訳©2003新日本聖書刊行会

"さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれませんか。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。

与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。」

イエスはまた一つのたとえを話された。「いったい、盲人に盲人の手引きができるでしょうか。ふたりとも穴に落ち込まないでしょうか。

弟子は師以上には出られません。しかし十分訓練を受けた者はみな、自分の師ぐらいにはなるのです。

あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁には気がつかないのですか。

自分の目にある梁が見えずに、どうして兄弟に、『兄弟。あなたの目のちりを取らせてください』と言えますか。偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうしてこそ、兄弟の目のちりがはっきり見えて、取りのけることができます。"

ルカの福音書 6章37～42節

聖書 新改訳©2003新日本聖書刊行会

はじめに、イエスさまの教えは更に続きます。今回の題は「さばき」です。イエスさまの公生涯となる一つ、山上の垂訓においては宗教者（律法学者）が対峙しています。特にマタイでは「さばき」という文字に「犬」と「豚」という文字が記載され、さらに「偽善者」という文字も書かれています。



はじめに、イエスさまの教えは更に続きます。今回の題は「さばき」です。イエスさまの公生涯となる一つ、山上の垂訓においては宗教者（律法学者）が対峙しています。特にマタイでは「さばき」という文字に「犬」と「豚」という文字が記載され、さらに「偽善者」という文字も書かれています。

マタイも、ルカもなぜこのような強いメッセージを文章としたのか？ マタイが当時のことを思いだしイエスさまが云ったことをそのまま思い起こし書いたのであれば、対峙している会衆と宗教学者になぜこのような言葉を語ったのかを推察してみたい。



そこで大きく3つに分けたい。

- 1, 人を罪に定めてはいけません。
- 2, 盲人に盲人の手引きはできない。
- 3, だから偽善者と言われる。



1, 人を罪に定めてはいけません。

イエスさまを取り巻く人々の中に宗教者（律法学者等）もおります。宗教者は、神から受けたとされる律法取り仕切り、祭司は宗教儀礼を執り行います。また神さまと人との間を執り成す仕事をします。そして職務の権限として、国の宗教として規定に接し取り締まるものとなります。ですから日常的に「さばく」という性質があったのかと考えます。

ユダヤ教の成立 ユダヤ人にとって捕囚そのものは苛酷な苦難ではなかったが、神の保護のもとにあったはずの祖国が消滅し、神殿は破壊されてしまったことは、ヤハウェ神への信仰をゆるがす大きな危機であった。それはヤハウェ神への疑義と異教への誘惑が強まるという形で高まった。しかしユダヤ人は捕囚生活の中で、強い望郷の念とともに新たな信仰形態を育んでいった。バビロン捕囚時代に生まれた、かつての神殿儀礼を中心とした信仰の形態に代わる新たな信仰形態は次のようなものである。

- ・長老や知識人を中心とした集会で律法（トーラー）の言葉を学び、祈り、礼拝するようになった。これが後のシナゴグの原型となった。

- ・異教徒からユダヤ人を区別する生活習慣—安息日、割礼、種々の食物規制—が定着した。

ここで生まれたユダヤ人の信仰上の生活習慣は、彼らが世界中に離散（ディアスポラ）した後も、二千年以上に渡って彼らのアイデンティティとして保持されるのである。そこで宗教史では捕囚以前を「古代イスラエル宗教」または「ヤハウェ宗教」といい、捕囚以降の律法を中心とした宗教を「ユダヤ教」と言って区別している。



ユダヤ教の成立 ユダヤ人にとって捕囚を
し、神殿は破壊されてしまったことは、
異教への誘惑が強まるという形で高まっ
んでいった。バビロン捕囚時代に生まれ
なものである。

・長老や知識人を中心とした集会で律法
の原型となった。

・異教徒からユダヤ人を区別する生活習慣
ここで生まれたユダヤ人の信仰上の生活習
のアイデンティティとして保持されるので
教」といい、捕囚以降の律法を中心とし



[アケメネス朝ペルシアのキュロス2世](#)は前539年にバビロンを征服し、翌前538年に勅令を發布し、ユダヤ人のイエルサレムへの帰還と神殿の再建を許可し、さらに戦利品としてバビロンに没収されていた神殿の器物を返還し、神殿再建のための財政援助を約束した。こうして約50年に近い捕囚の生活を終わり、帰還民が続々と出発し、イエルサレムを目指した。この時帰還した人数については旧約聖書エズラ記に詳しく載せられているが、それらは一度に帰郷したのではなく、長い時間をかけて戻ったものであろう。なお、ユダヤ人が戻ったパレスチナの地はペルシア帝国の州（サトラップ）とされ（異説あり）、ユダヤ人のゼルバベル（ダヴィデ家の血統であつたらしい）が総督に任命され、一定の自治が行われた。ペルシア帝国は宗教的な寛容政策をとり、ユダヤ教などの民族宗教はそのまま信仰を認められた。

イエスの時代における宗教者たち

ユダヤ教の変質

紀元前後のユダヤ教は、次の三つの党派に分かれて争うようになっていた。

- 1) パリサイ派 神の恵みに答えて日常生活で律法（トーラー）を遵守することを強調する。
- 2) サドカイ派 従来のイェルサレム神殿を中心とした儀礼の遵守を主張する保守派。
- 3) エッセネ派 神殿儀礼の形式化を厳しく非難、律法の遵守も日常生活だけでなく、一種の共同体を形成して禁欲的に実践することを主張。（その一派の「クムラン教団」の修道院遺跡が死海のほとりで発掘され、「死海文書」という沢山の文献が発掘された。）



1, 人を罪に定めてはいけません。

イエスさまを取り巻く人々の中に宗教者（律法学者等）もおります。宗教者は、神から受けたとされる律法取り仕切り、祭司は宗教儀礼を執り行います。また神さまと人との間を執り成す仕事をします。そして職務の権限として、国の宗教として規定に接し取り締まるものとなります。ですから日常的に「さばく」という性質があったのかと考えます。

ここで注意することは、異邦人の「さばく」とは若干意味が違うように思います。異邦人であれば日常で「妬み」「憎しみ」「恨み」などから人格否定（さばく）が発生する場合があります。当時では皇帝（国）より託された司政官が定められた法（支配した国の法）の「裁き」をします。それとは別に当時のユダヤ人は律法によっても民を裁きました。むろん人間ですから感情も働き、そのことで律法学者もお互いに問答を繰り返し図りました。

ではなぜ「律法」を重んじる双方（イエスと律法学者）が対立となったのでしょうか？そこが今日の鍵です。つまり宗教学者はA,「口伝律法」を重視していたのです。イエスさまはB,モーセが受け取った律法を重視していました。

これをA,人間の基準とB,神の基準と云って説明されます。

ではなぜ「律法」を重んじる双方（イエスと律法学者）が対立となったのでしょうか？そこが今日の鍵です。つまり宗教学者はA,「口伝律法」を重視していたのです。イエスさまはB,モーセが受け取った律法を重視していました。

これをA,人間の基準とB,神の基準と云って説明されます。



A. □伝律法はバビロン捕囚時、民族的苦難を契機としてユダヤ人としての民族意識を高め、ユダヤ教という民族宗教の体系をつくりあげ教育されていった。

B. モーセの律法は、神より選ばれた民としての区分と、創造された人間としての生き方が記されたもの。

A. 旧約律法はバビロン捕囚時、民族的苦難を

契機としてユダヤ人としての民族意識を高め、ユダヤ教という民族宗教の体系をつくりたいせつな第一の戒めです。

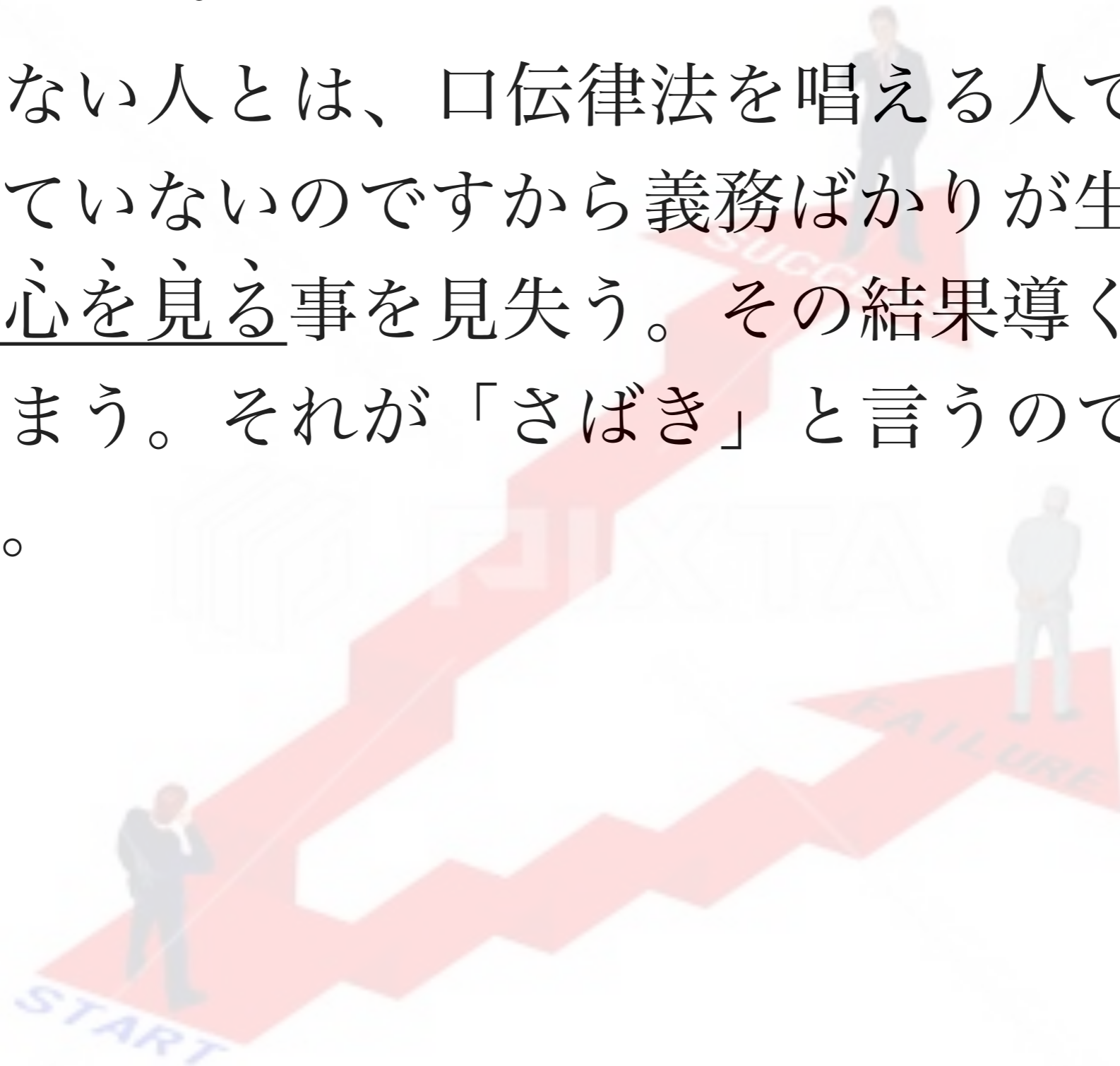
『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」” マタイ22章37節～40節

B. モーセの律法は、神より選ばれた民としての区分と、創造された人間としての生き方が記されたもの。

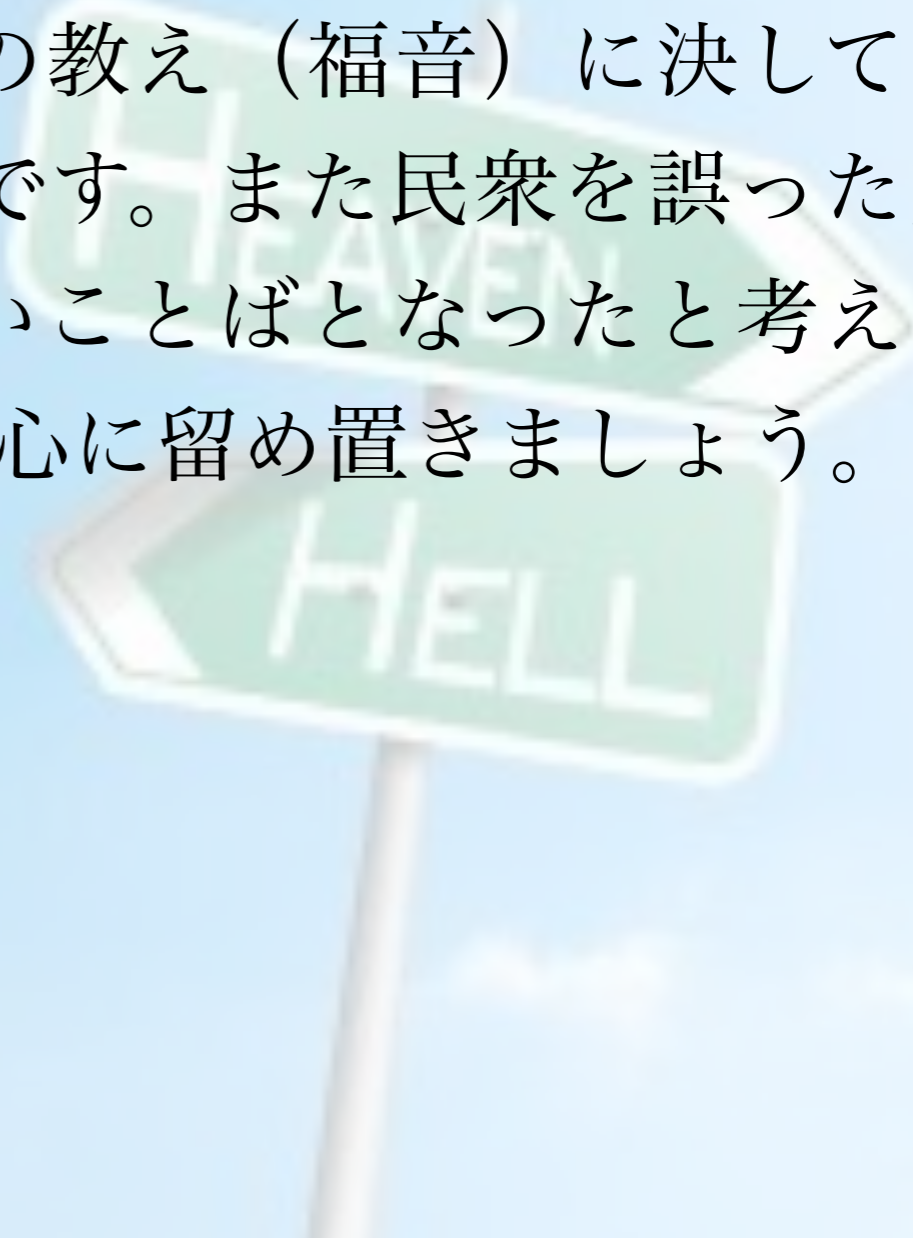
2, 盲人（見えていない人）に盲人（迷っている人）の手引きはできない。

見えていない人とは、口伝律法を唱える人です。最初から見えていないのですから義務ばかりが生じ、大切な内なる心を見る事を見失う。その結果導く方向性がズレてしまう。それが「さばき」と言うのではないのでしょうか。



3, だから偽善者と言われる。

その見えていない人を（盲人）を偽善者と言っています。さらに「聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。」マタイ7:6 犬と豚発言がでてきました。それはイエスさまの教え（福音）に決して耳を傾ける事はないだろうということです。また民衆を誤った方向に導くことから、そのような厳しいことばとなったと考えます。私たちも次の三つの項目を覚え、心に留め置きましょう。



3, だから偽善者と言われる。

その見えていない人を（盲人）を偽善者と言っています。さらに「聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。」マタイ7:6 犬と豚発言がでてきました。それはイエスさまの教え（福音）に決して耳を傾ける事はないだろうということです。また民衆を誤った方向に導くことから、そのような厳しいことばとなったと考えます。私たちも次の三つの項目を覚え、心に留め置きましょう。

- 1, 人を罪に定めてはいけません。
- 2, 盲人に盲人の手引きはできない。
- 3, だから偽善者と言われる。